

第5章 持続可能な社会を担う人づくり

第1節 環境学習・環境教育の推進

1 環境学習・環境教育の推進

(1) 環境教育副読本

本市では、1996年度（平成8年度）から、環境教育副読本「わたしたちのくらしと環境」を作成し、市内の小学校に配付してきました。

2022年度（令和4年度）からは、この副読本をデジタル化し、市ホームページ（環境情報サイト「くわいちゃんネット」）に掲載し、市内の小学校を対象とした環境やごみに関する出前授業において、活用しています。



環境副読本「私たちのくらしと環境」表紙画像

(2) 出前授業・出前講座

本市では、学校教育や社会教育の場における環境学習を推進していくため、小・中・高校生や地域住民を対象に、ごみや環境に関する出前授業・出前講座を行っています。

市内の小・中学校では、社会科や総合的な学習の時間などにおいて、環境をテーマに、地域の特色を活かした環境学習に取り組みました。

<2024年度（令和6年度）実績>

区分	廃棄物		水・大気		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数
保育所	0回	0人	0回	0人	0回	0人
幼稚園	0回	0人	0回	0人	0回	0人
小学校	17回	1,034人	3回	122人	20回	1,156人
中学校	1回	14人	0回	0人	1回	14人
高等学校	1回	342人	0回	0人	1回	342人
その他	25回	609人	5回	147人	30回	756人
計	44回	1,999人	8回	269人	52回	2,268人

実施状況

	廃棄物		水・大気		環境全般		合計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
2015年度	119回	5,963人	12回	463人	1回	29人	132回	6,455人
2016年度	103回	5,596人	16回	620人	3回	210人	122回	6,426人
2017年度	108回	5,083人	15回	738人	0回	0人	123回	5,821人
2018年度	85回	4,026人	12回	649人	0回	0人	97回	4,675人
2019年度	68回	3,621人	11回	503人			79回	4,124人
2020年度	40回	2,138人	8回	336人			48回	2,474人
2021年度	27回	1,428人	8回	335人			35回	1,763人
2022年度	58回	2,888人	3回	81人			61回	2,969人
2023年度	35回	2,059人	13回	693人			48回	2,752人
2024年度	44回	1,999人	8回	269人			52回	2,268人

(3) 環境講座

ア 環境保全講演会

日 時 2025 年（令和 7 年）3 月 22 日（土）14 時～
 開催形式 対面形式
 講 師 依田 司（気象予報士）
 テーマ みんなで考えよう！地球のためにできること
 「気候変動と地球温暖化」
 内 容 近年の異常気象や気候変動、地球温暖化対策など
 来場者数 300 人



開催状況

	開催日	テーマ	講師	来場者数	配信数
2017年度	2018年3月3日（土）	天気の人から見た天気と地球温暖化	天達 武史（気象予報士）	392人	—
2018年度	2019年3月9日（土）	昆虫から診た地球診断	池田 清彦 （生物学者/早稲田大学名誉教授）	432人	—
2019年度	2019年9月14日（土）	江戸時代の人々の生活と環境のかかわり	山田 順子（時代考証家）	120人	—
2020年度	—	—	—	—	—
2021年度	2021年11月1日（月） ～11月7日（日）	さかなクンのギョギョッとびっくりお魚教室！	さかなクン （東京海洋大学名誉博士・客員教授）	—	3,185人
2022年度	2023年2月25日（土）	環境と気象	石原 良純（俳優/気象予報士）	400人	424人
2023年度	2024年2月22日（木）	マシンガンズ滝沢と考えるごみ問題	滝沢 秀一（お笑い芸人）	269人	127人
2024年度	2025年3月22日（土）	気候変動と地球温暖化	依田 司（気象予報士）	300人	—

※2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施
 2021 年度は Web 配信限定。
 2022 年度は動画配信を併用、2023 年度はライブ配信を併用。

(4) 環境関連施設等バス見学

箕沖地区の次世代エネルギー施設やごみ処理施設、リサイクル施設などの環境関連施設を対象に、市民団体を対象にした借上げバスによる見学を実施しています。

	実施団体数	参加人数
2015年度	20団体	778人
2016年度	18団体	653人
2017年度	18団体	688人
2018年度	19団体	680人
2019年度	17団体	614人
2020年度	—	—
2021年度	—	—
2022年度	—	—
2023年度	—	—
2024年度	13団体	406人

※2020年度～2023年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施

(5) こどもエコクラブ

こどもたちの自主的な環境学習を支援するために、環境省では1995年（平成7年）から「こどもエコクラブ事業」を実施しています。本市では、2024年（令和6年）3月末現在、4クラブが登録しています。

環境教育・環境学習で扱う内容は、ごみ問題など身近な環境問題に関するものから、環境科学に関するもの、更にはライフスタイルや社会経済活動に関することまで多岐にわたっています。

2 環境学習資材の提供

本市では、多くの市民に環境問題について関心を持っていただくため、環境啓発パネルなど環境啓発用品の貸出を行っています。

	3 R		地球温暖化		絶滅危惧種		生物多様性		合計	
	貸出回数	貸出枚数	貸出回数	貸出枚数	貸出回数	貸出枚数	貸出回数	貸出枚数	貸出回数	貸出枚数
2018年度	0回	0枚	2回	26枚	0回	0枚	0回	0枚	2回	26枚
2019年度	0回	0枚	1回	10枚	0回	0枚	0回	0枚	1回	10枚
2020年度	0回	0枚	1回	2枚	0回	0枚	0回	0枚	1回	2枚
2021年度	2回	17枚	0回	0枚	1回	3枚	0回	0枚	3回	20枚
2022年度	1回	5枚	0回	0枚	0回	0枚	0回	0枚	1回	5枚
2023年度	1回	5枚	0回	0枚	0回	0枚	0回	0枚	1回	5枚
2024年度	0回	0枚	0回	0枚	0回	0枚	0回	0枚	0回	0枚

第2節 環境啓発の推進

1 環境体験講座の充実

(1) 環境体験講座等

福山市リサイクルプラザでは、施設の見学や視察の受入れを行うとともに、環境体験講座や情報提供の場を設け、ごみの発生抑制やリサイクルの推進等の啓発を行っています。

	環境体験講座		貸館業務		視察・見学		イベント等		施設利用	来館者数
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	利用者数	
2015年度	171回	1,299人	37回	756人	70回	3,080人	—	2,538人	—	7,673人
2016年度	171回	1,166人	22回	760人	70回	2,979人	—	4,724人	—	9,629人
2017年度	171回	1,275人	9回	379人	80回	3,756人	4回	4,822人	513人	10,745人
2018年度	119回	2,348人	12回	196人	73回	3,247人	2回	1,817人	5,589人	13,197人
2019年度	136回	3,111人	9回	108人	80回	3,097人	4回	3,936人	7,686人	17,938人
2020年度	111回	1,292人	52回	854人	29回	999人	2回	2,973人	4,779人	10,897人
2021年度	53回	442人	29回	434人	21回	1,059人	4回	6,336人	265人	8,536人
2022年度	13回	668人	24回	289人	45回	1,840人	4回	10,014人	145人	12,976人
2023年度	25回	1,534人	17回	111人	59回	1,839人	2回	1,340人	16,385人	21,209人
2024年度	10回	2,626人	6回	66人	35回	1,485人	2回	1,400人	17,565人	23,142人

(2) 水生生物調査

川の中には、魚、水生昆虫、貝、ヒル、イトミミズなどたくさんの生物が生息していますが、水がきれいであるか、汚れているかによって生息する生物の種類が異なります。

その性質を利用して、川の汚れがどのくらいか、簡単に調べる方法として「水生生物による水質の調査法」が環境省と国土交通省の合同で示されています。指標（ものさし）となる生物の生息状況を調べることによって、水の汚れの状態を“きれいな水（水質階級Ⅰ）”“ややきれいな水（水質階級Ⅱ）”“きたない水（水質階級Ⅲ）”“とてもきたない水（水質階級Ⅳ）”まで大きく4つのランクに分けることができます。

特別な道具を必要とせず、比較的簡単に調査することができることから、水辺に親しみながら体験的な学習をすることができます。

2024年度（令和6年度）は、学校、市民団体等10団体326人が参加し、市内の10河川で調査を行いました。



水生生物調査の様子

開催状況

	調査河川	実施団体数	参加人数
2015年度	7河川	8団体	219人
2016年度	7河川	8団体	288人
2017年度	6河川	7団体	321人
2018年度	6河川	8団体	416人
2019年度	7河川	11団体	503人
2020年度	6河川	8団体	336人
2021年度	7河川	8団体	335人
2022年度	7河川	8団体	335人
2023年度	8河川	13団体	693人
2024年度	10河川	10団体	326人

(3) 磯の生き物調査

磯に生息している生き物を指標として、海域の水質状況を判定する方法で、「磯の生き物による水環境の簡易評価法」があります。緑藻類、紅藻類、甲殻類、貝類、カイメン類、ホヤ類など大きく6種類の生き物の生息を確認することにより、海の汚れの状態を“大変きれいな海”“きれいな海”“ややよごれた海”“よごれた海”まで大きく4つのランクに分けることができます。

この調査では、環境教育の一環として、環境カウンセラー及び環境保全アドバイザーを講師に、不思議な生き物の発見等、海辺に親しみながら仙酔島の水環境の評価を行いました。

日 時 2024年（令和6年）8月1日（木）12時～

場 所 鞆交流館、仙酔島

対 象 環境保全に関心のある市内の小学生

参加者 31人



磯の生き物調査の様子

開催状況

	参加人数
2015年度	36人
2016年度	35人
2017年度	29人
2018年度	37人
2019年度	43人
2020年度	48人
2021年度	51人
2022年度	50人
2023年度	49人
2024年度	31人

2 環境イベント等での啓発

(1) ごみ収集車による啓発活動

ア ごみ収集車のナンバープレートを「530〔ごみゼロ〕」に統一

(2007年〔平成19年〕9月～)

環境センターのごみ収集車のナンバープレートを「530〔ごみゼロ〕」に統一しています。



イ ハイブリッドディーゼルのごみ収集車、ダンプ車を導入

ごみ収集における二酸化炭素排出量削減をめざす取組の一環として、ディーゼルエンジンと電動式モーターを組み合わせた「ハイブリッドディーゼル」のごみ収集車及びダンプ車を次のとおり導入し、各環境センターに配備しています。

- ・ごみ収集車 2008年(平成20年)11月～
- ・ダンプ車 2009年(平成21年)12月～



ハイブリッドディーゼルのごみ収集車



ハイブリッドディーゼルのダンプ車

(2) 「くわいちゃん」による啓発活動

「くわいちゃん」は、2007年度(平成19年度)に環境をより身近に感じ、そして効果的な事業を展開するため、市にちなんだ動植物、特産物、自然などを生かした環境イメージキャラクターを募集し、多くの応募の中から「くわいちゃん」が選ばれました。まっすぐのびた芽でエコな情報をキャッチし、みんなにエコな芽が出るように各環境イベントやパンフレットなどで使用し啓発活動を行っています。

また、環境部所有の電気自動車には「くわいちゃん」のイラストを掲示して、脱炭素社会を推進する環境にやさしい車両として、市民への啓発に使用しています。



福山市環境イメージキャラクター
「くわいちゃん」



「くわいちゃん」イラスト入り電気自動車

(3) 「ごみ分別ガイド」の福山市 AI 案内サービス

2020 年（令和 2 年）10 月 28 日から AI チャットボットサービス「福山市 AI 案内サービス」を実施しています。ごみ分別等の問い合わせに、対話形式で自動回答する「ごみ分別ガイド」を導入しています。

2024 年度（令和 6 年度）は、合計で 57,093 件の問い合わせがありました。



「ごみ分別ガイド」入力画面

(4) 環境部公式 X（旧 Twitter）アカウント「くわいちゃんの芽」による情報発信

2021 年（令和 3 年）4 月 1 日から環境部公式 X（旧 Twitter）「くわいちゃんの芽」による情報発信を開始しています。

福山市リサイクルプラザなどのイベント情報や身近な環境情報などを配信しています。

2025 年〔令和 7 年〕3 月末現在のフォロワー数は、815 人となっています。



環境部公式 X（旧 Twitter）「くわいちゃんの芽」画面

(5) 市公式 LINE によるごみ収集日等の情報提供

2022 年（令和 4 年）10 月からごみ出しの利便性を高めるため、市公式 LINE でごみに関わる情報を掲載しました。

また、2024 年（令和 6 年）4 月 1 日から家庭ごみの収集日確認不足による、ごみ出しの曜日間違いを防止するため、ごみ収集日の通知、ごみ持ち込み場所の検索及びごみ収集日カレンダーの機能を追加しました。



市公式 LINE 画面

(6) 環境企画展

ア 次世代エネルギーパーク企画展

6月の環境の日及び環境月間に合わせ、幅広い市民に環境保全への関心と理解を深めることを目的に、福山市リサイクルプラザにおいて福山市次世代エネルギーパークや環境関連企業の展示を行いました。

日 時 2024年(令和6年)6月5日(木)～6月30日(日)
場 所 福山市リサイクルプラザ
来館者数 1,859人



次世代エネルギーパーク企画展展示の状況

イ 環境企画展～身近なおじゃま虫から考える生物多様性～

身近にいる害虫などのおじゃま虫を通して、生物多様性についてふれ、上手な付き合い方を考えるというコンセプトにパネル等の展示を行いました。併せて、福山市の外来アリ対策についてもパネル展示を行いました。

日 時 2024年(令和6年)8月1日(木)～9月1日(日)
場 所 福山市リサイクルプラザ
来館者数 1,252人



環境企画展展示の状況

ウ 水圏環境啓発展示

「続・瀬戸内のオアシス展」～海のゆりかごと知られざる秘境～

脱炭素社会・自然共生社会の構築に向けたきっかけ作りになることを目的に、福山大学と連携し、「海のゆりかご」と言われるアマモ場の役割・現状についての展示や、そこに棲みつく生体を水槽での展示を行いました。

日 時 2024 年（令和 6 年）10 月 12 日（土）～10 月 14 日（月）
 場 所 福山市リサイクルプラザ
 来館者数 812 人



水圏環境啓発展示の状況

環境企画展の開催状況

	実施回数	来館者数
2020年度	2回	2,973人
2021年度	1回	2,777人
2022年度	1回	450人
2023年度	2回	1,618人
2024年度	3回	3,923人

（7）環境イベント

ア 環境月間イベント2024

6月の環境月間に合わせ、環境への配慮行動につなげることを目的に、子どもから大人まで幅広い年齢層の来場者が、次世代エネルギーパークのサテライト施設や環境関連企業と連携したものづくりの体験や、再生可能エネルギー・省エネルギーに関する取組についての学習を行いました。

日 時 2024 年（令和 6 年）6 月 30 日（日）10：00～15：00
 場 所 福山市リサイクルプラザ
 来場者数 600 人



水圏環境啓発展示の状況

イ ふくやま環境フェア

3R推進月間・食品ロス削減月間に合わせて、市民のごみ減量やリサイクル、環境にやさしい行動を促進することを目的に、福山市次世代エネルギーパークを広く周知するほか、持続可能な開発目標に取り組む企業や団体の活動の内容を紹介しました。

日 時 2024年（令和6年）10月20日（日）10：00～16：00

場 所 福山市リサイクルプラザ

来場者数 800人



ふくやま環境フェアの状況

環境イベントの開催状況

	実施回数	来場者数
2015年度	—	2,538人
2016年度	—	4,724人
2017年度	4回	3,743人
2018年度	2回	1,817人
2019年度	4回	3,936人
2020年度	2回	2,973人
2021年度	4回	6,336人
2022年度	4回	10,014人
2023年度	2回	1,340人
2024年度	2回	1,400人

ウ スポーツ気分でごみ拾い 福山の“街” Clean up 大作戦

2022年（令和4年）4月に改正環境美化条例を施行して以降、ポイ捨てをしない・させない機運を醸成するとともに、海洋プラスチック流出を防止するため、街や海、川など様々な場所で「福山の“街” Clean up 大作戦」を実施しています。

2024年度（令和6年度）は6回の清掃活動を開催し、1,047人の市民、団体、事業者の参加がありました。

また、2024年度（令和6年度）は、継続的に清掃活動を実施され、他の模範となる市民8人、1事業者に対し、「福山 Clean up 功労者表彰」を行いました。



開催状況

	実施回数	実施場所	参加人数	ごみ量
2022年度	5回	福山駅周辺、クレセントビーチ海浜公園、横山海岸、中央公園～天守北側広場	784人	1,980kg
2023年度	4回	中央公園～天守北側広場、福山駅周辺、クレセントビーチ海浜公園、内海支所周辺	579人	1,146kg
2024年度	6回	福山駅周辺、芦田川かわまち広場、松永駅周辺	1,047人	425kg

第3節 環境コミュニケーションの推進（公害苦情）

1 定期的な意見交換

ア シャープ福山レーザー株式会社の事例

シャープ福山レーザー株式会社（大門町旭1番地）では、積極的に地域住民とのコミュニケーションを推進するために、事業者、地域住民（野々浜学区）、行政（福山市）の三者による事業所排水の採水測定を行っています。

三者が集まって排水を採水して、それぞれ別の分析機関にて分析を行い、後日その結果を持ち寄り照合して、問題がないことを三者で確認しています。三者が集まり、排水の話だけではなく、様々な意見を交換できる機会の一つにもなっています。



三者採水の様子（出典：SHARP 2024 年度 福山事業所 環境レポート）

2 公害苦情

（1）公害苦情に係る相互理解の促進

公害苦情解決の主な解決内容をみると、大気汚染については、野焼きの中止、焼却炉の適正管理に努めるなどです。

水質汚濁については、排水処理施設の設置、施設の適正な維持管理、汚泥・油の回収などです。

騒音・振動については、窓・シャッターを閉めての操業、音響機器などのボリュームを下げる、早朝・夜間の作業には気をつけるなどです。

悪臭については、設備の改善や原因物質の除去等により改善しています。

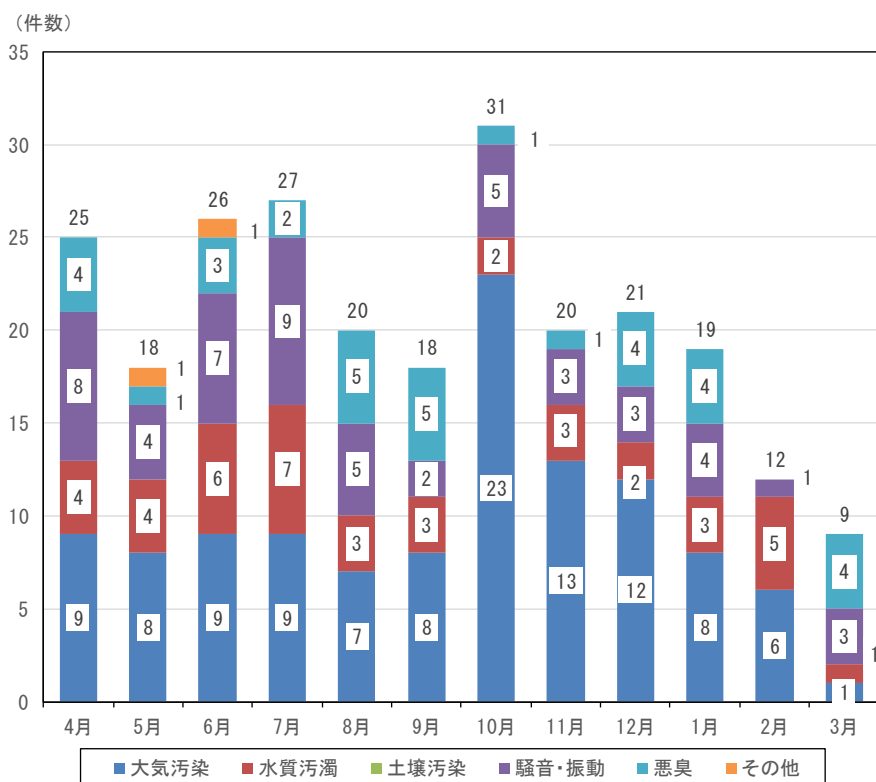
このように、公害苦情の多くは、発生源に対する適切な指導と、発生源者が周囲の環境に配慮した操業を心掛けることで解決します。

（2）年度別及び月別苦情件数

2024年度（令和6年度）に、市民から寄せられた公害苦情件数は246件でした。

その内訳は、大気に関するもの113件（45.9%）、水質に関するもの43件（17.5%）、騒音・振動に関するものが54件（22.0%）、悪臭に関するもの34件（13.8%）、その他が2件（0.8%）となっています。

2024年度（令和6年度）月別公害苦情件数



公害苦情件数の経年変化

